

四日市の 未来を切り開く！！

森ともひろ通信 創刊号



32歳
公認会計士
無所属

あなたは **000001** 人目の読者です。

森ともひろの決意 ～四日市を日本一元気なまちにする～

私は、公認会計士試験合格後、7年間東京にて監査法人及びコンサルティング会社に勤務してきました。そんな中、四日市の悪化した財政状況を知ります。また、近年「四日市に元気が無くなった。」という言葉をよく耳にしました。

その様な四日市の現状を知り、四日市の為に何かしたい、しなければならないという思いが私の中で日々大きくなっていきました。そして、限られた時間の中、東京で地元四日市のことを一人で憂いている時間があるのであれば、自らが市政に入り込み、起爆剤となり一刻も早く四日市を復興させるべきだという思いに至りました。その思いを行動に移すべく、この夏に今まで勤めておりました監査法人を退職し、政治の道に足を踏み入れました。

私は『日本一元気なまち四日市』を目指します。元気なまちとは、盤石な財政基盤が確立され、活気溢れ、市民の皆様が四日市に誇りと責任を持ち、将来の生活に希望を見出す事の出来るまちであると私は考えます。元気なまちは、人を惹き付けます。「住んで良かった」と思うまち、「住んでみたい」と思わせるまち、そんな四日市の創造に尽力していきます。

時代は変わります、人々のニーズも変わっていきます。それに応じて、政治も変わり、成長していかなければなりません。成長や変化の無い自治体には、衰退が待っています。2,300億円にのぼる市債残高を抱える四日市の住民として、私たちは何を考え、何に取り組んでいか真剣に考えていかなければならない時期に来ています。「あれもこれも」の時代は終わり、「何をするか」の時代となっております。今後、地域主権の進展により、地方に与えられる権限が増大します。「何をするか」の「何」の部分、我々が自らの判断で決めていかなければなりません。つまり、言い換えれば、我々の手で新しい四日市を創り上げ、四日市の未来を切り開いていくことが出来るのです。

私は、市民の皆様の市政への参画及び、市民が一丸となった取り組みが、四日市の成長の礎になると考えます。その様な成長の土壌を作り上げることが、私に与えられた使命であると考えます。一方で、地方に与えられる責任も増大します。大きな責任を胸に刻み『四日市を日本一元気なまち』にする為に、一心不乱に走り続けます。私と共に四日市の未来を切り開いていきましょう。

具体的な政策については、次号以降掲載していきます。

森ともひろプロフィール

学歴

平成6年 西陵中学校卒業
平成9年 四日市南高校 卒業
平成13年 立命館大学 理工学部 卒業
平成22年 早稲田大学大学院 公共経営研究科 入学

職歴

平成15年 公認会計士第2次試験合格
平成15年 中央青山監査法人 入所
平成18年 あらた監査法人 入所
平成19年 公認会計士登録
平成21年 プライスウォーターハウスクーパース株式会社
事業再生/再編グループ 出向
平成22年 あらた監査法人 退所



森ともひろメモ

スポーツ

小学校:サッカー
中学校:野球
高校,大学,社会人:ラグビー
*根っからの体育会系です。

その他の活動

大学時代の4年間、滋賀県立希望が丘文化公園にてキャンプカウンセラーとして、ボランティア活動を実施

早稲田大学大学院 公共経営研究科レポート【岩手県奥州市報告】

8月29日～9月3日の間、岩手県奥州市にて行われた早稲田大学大学院 公共経営研究科夏期講座に参加してきました。事前に、奥州市からいくつかの課題を頂き、6日間のフィールドワークを経て政策提言を行うというもので、私のグループは、『協働のまちづくり推進方策』が課題でした。奥州市は、平成21年に自治基本条例が制定され、市内全域に整備された30の地区センター、NPO活動に対する0.4%（オーシュー）支援事業などの「地域コミュニティ活性化支援」「NPO活性化支援」に取り組みされており、『市民協働のまちづくり』に力を入れている自治体であり、市を挙げての『協働のまちづくり』に対する取り組みは大変勉強になりました。

【地区センター機能】

市内30の地区は住民から会費を徴収し活動費に充てており、地区センターは正に『地域づくり活動の拠点』となっておりまして。センターは市民による自主的かつ創意工夫あふれる地域づくりを推進するという目的の下、設置され、主に住民が運営し、それぞれの地区センターが住民のニーズを汲み取り、自由な取り組みが出来る様、一定の裁量が与えられております。

【NPO支援事業】

0.4%支援事業では、市民税納税額の0.4%を市内のNPO活動の支援に充てるという事業であります。当事業のユニークな取り組みはNPO活動への補助金の一部を住民投票によって決めている点です。年に1度、1世帯につき1票与えられ、補助金を求めるNPOはその活動内容について公開説明会や市の広報紙により市民に活動内容を発信します。住民は、自らが補助金を付与したいという活動に投票し、その得票数がNPOの補助金の一部になるというものです。住民の投票数は年々増加傾向にあり、住民のNPO活動に対する理解や興味が高まっています。こういったNPOを支援するという明確な市の姿勢が市民活動の活性化に繋がっていると感じました。



今後、四日市市においても限られた財源の中、何から何まで全て行政に頼るということは出来なくなって来ています。住民が地域を支え、地域が住民を支える仕組みの構築、そして、地域の事は地域で決める。そんな住民自治を推し進めていく必要があると考えます。市民の皆様が参画意識を持ち、市民協働のまちづくりを推し進めていかなくてはなりません。私は、市民、NPO、地域、行政、企業等が緊密に連携出来る社会の枠組み創りを四日市において推し進めていきます。市民が自立したまちこそが、これからの新しい自治体像であり、四日市もそういった自治体に向けて、舵を切ることが大切です。

活動費報告

公認会計士の経験を活かし、今後、市に対して徹底的な財務データの情報公開を求め、その検証を行っていきます。その決意として、自らの活動費についても情報公開していきます。森ともひろは責任ある政治を目指します。

森ともひろ応援隊

早稲田大学大学院公共経営研究科教授 藤井 浩司先生



森さんは積極的に研修、ケーススタディに参加され、我が大学院のホープです。地元四日市市の活性化の研究にも取り組み、将来の担い手として有望であります。私の座右の銘は、早稲田大学の校歌にある「集まり散じて人は変われど」であります。

勉学に励みながら、持ち前のホスピタリティーに益々磨きがかかることを楽しみにしています。森さんの活躍に期待しております。

【活動費詳細】2010年8月末まで

	(円)
印刷代	138,465
後援会リーフレット	88,550
後援会入会申込書はがき	26,700
名刺	23,215
郵便代	1,820
郵送代	1,050
のぼり代	7,025
たすき代	13,650
地図代	24,150
後援会看板代	123,060
合計	309,220

*消費税込

森ともひろ サポーター募集【共に、四日市の未来を切り開きましょう！】

森ともひろを応援していただける方、森ともひろの話を聞いてみたい方、森ともひろに友人をご紹介して頂ける方、「森ともひろ通信」の定期購読を希望される方等、ご連絡頂けますでしょうか。

<森ともひろ後援会連絡先>

〒512-1105 四日市市水沢町2452 TEL,FAX:059-329-2193 E-mail: genki@mori-tomohiro.net

HP: <http://mori-tomohiro.net>

また、森ともひろは平日の朝、四日市市の主要駅にほぼ毎日立ち続けます。その際にお声をお掛け下さい。